

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

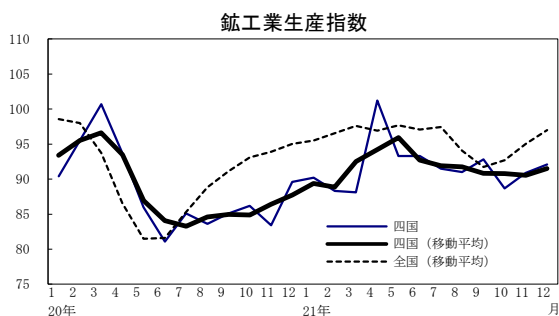
前回からの主要変更点

	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、持ち直しの動きに弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、持ち直しに足踏みがみられる	↓
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しに足踏みがみられる。

10-12月期の鉱工業生産は、電気機械が減少したこと等により、前期比1.3%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
化学・石油石炭	22.1	▲7.8	▲1.1	▲22.5	13.6	10.5
食料品	13.8	▲6.1	0.4	8.4	▲0.7	▲4.4
電気機械	12.8	▲4.3	▲6.6	▲6.6	0.8	▲0.1
汎用・生産用機械	11.3	▲5.8	1.4	18.7	▲10.6	▲5.1
輸送機械	7.9	▲13.4	1.0	▲0.6	22.7	0.7
鉱工業	100.0	▲4.3	▲1.3	▲4.4	2.5	1.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 10-12月期、12月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

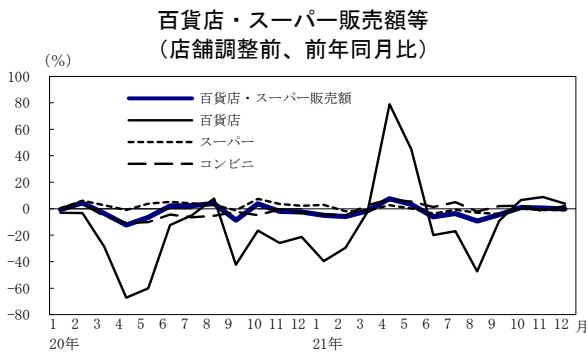
10-12月期は前期比3.7%増となった。月別にみると、10月は前月比3.0%増、11月は同0.4%増、12月は同0.5%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.4%増となった。月別にみると、10月は前年同月比0.9%増、11月は同0.4%増、12月は同0.1%減となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比6.1%増となった。

スーパーは、10-12月期は同0.6%減となった。



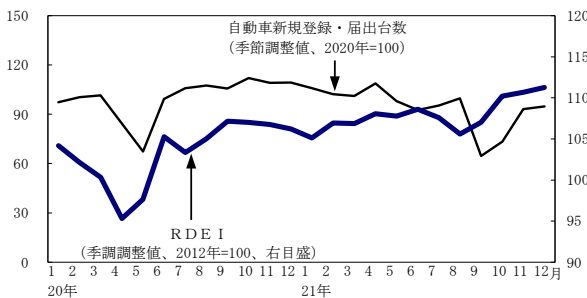
	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	3.7	3.0	0.4	0.5
百貨店・スーパー(*2)	0.4	0.9	0.4	▲0.1
百貨店(*2)	6.1	6.6	8.9	3.8
スーパー(*2)	▲0.6	0.1	▲1.0	▲0.9
コンビニ(*2)	0.9	2.3	▲1.9	2.2
乗用車(*3)	▲20.4	▲34.8	▲13.3	▲13.0
(季節調整値)(*3)	0.6	13.5	26.8	1.9

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移

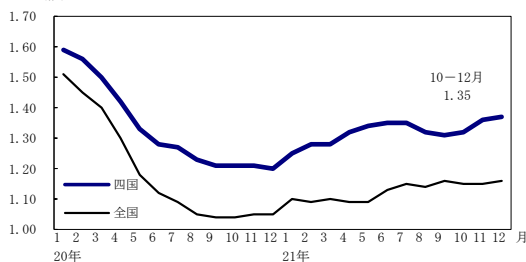


3. 雇用情勢

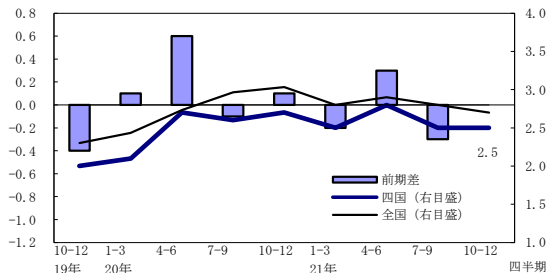
雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値)



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

10. 四国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	▲	・1月中旬以降、新型コロナウイルス新規感染者数急増に伴い、繁華街の人出が激減しているため、飲食店への納品が激減した（一般小売店〔酒〕）。
		○	・新型コロナウイルス感染症の影響で来客数は減っているものの、販売量は落ちていない（通信会社）。
		□	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大とまん延防止等重点措置の適用で、ここ数日、キャンセルが多く発生している（旅行代理店）。
		×	・予約が大きく減少している（都市型ホテル）。
		—	—
	企業 動向 関連	□	・思うようには受注が伸びず、苦しい状況にある（建設業）。
		▲	・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、社内に感染者はいないが、保育園や学校等の休校により出社できない者が増加し、稼働人員減少により生産量や出荷量が減少している（鉄鋼業）。
	雇用 関連	○	・受注量が回復している。ただ、ウッドショック、コンテナ不足の影響を受けて現場工事の進捗が遅れており、売上は見込みよりダウンしている（木材木製品製造業）。
		▲	・内定状況は前年度と大きく変わらないが、まだ未内定の学生もいる。新型コロナウイルス新規感染者数の急拡大で、未内定の学生の就職活動が懸念される（学校〔大学〕）。
	その他の特徴 コメント	○	・新型コロナウイルス特需により、求人数が一時的に増加傾向にある（人材派遣会社）。
○		□：1月前半までは売上好調であったが、新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大により来客数が減少し、売上も激減した（衣料品専門店）。 ▲：客単価は前年を上回って推移しているものの、来客数が減っている。購入目的のある客しか来店しない傾向が見受けられる（家電量販店）。	
先行き	家計 動向 関連	□	・新型コロナウイルスオミクロン株の感染拡大の状況次第であり、先行きが不透明である（タクシー運転手）。
		▲	・イベント行事が中止や延期になっているため、来客数は減少すると予想する（美容室）。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルスの影響により先行きが不透明である。また、依然として原油価格が高騰しており、高止まりが予想されることも不安要素の1つである（化学工業）。
		○	・新型コロナウイルスオミクロン株は潜伏期間が短く、感染した際の待機期間も短いため、2～3か月先の景気はやや良くなると予想する（広告代理店）。
	雇用 関連	▲	・海上のコンテナ不足の早期改善は難しく、また新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、出荷計画も数量減少の見込みである（輸送業）。
		○	・新型コロナウイルスへの対策が落ち着きをみせ、新年度からの採用活動が活発になると予想する（民間職業紹介機関）。
	その他の特徴 コメント	□	・新型コロナウイルスオミクロン株の爆発的な流行により、宿泊業や飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業に打撃を与えると予想する。一方で、3回目のワクチン接種の準備も進んでいるため、製造業などは回復基調であり、ワクチン接種が進めば春頃には収束傾向になると思う（職業安定所）。
		▲	・観光業や飲食業などの業績回復の見込みが立たず、先行きが不透明である。また、今後も求人数の減少は続く予想する（求人情報誌）。
	その他の特徴 コメント	□	□：食品の値上げは今後も何か月か続くため、特売商品の動きを活発化させて売上を引き上げることでバランスを保つという状況が続くと予測する（スーパー）。
		▲	▲：建築費の値上がりと物流の滞りから、建設の工期が延びることが予想されるため、1年間事業を遅らせる事業者が増加している（設計事務所）。

(D I) 現状・先行き判断D I（四国）の推移（季節調整値）

